

学校評価シート

<p><b>東海市立富木島中学校</b></p> <p>住所 東海市富木島町向イ27番地                  電話番号 052-603-2355 生徒数 664名                  校長名 加古 勲 23学級 (内 特支5)</p>		<p>○ <b>教育目標</b> 「学思行 相須ツ」「一人一切人 一切人一人」二人の郷土の偉人の教えを教育の基本理念とする。                  1 自ら学ぶ態度をとる 2 真心を行動で示す 3 進んで心身を鍛える</p> <p>○ <b>地域の特色</b> 校区3つのコミュニティが、それぞれ特色ある活動を展開している。地域の活動に生徒がボランティアとして参加できる環境を整え、地域行事を通して学校と地域が協働し、生徒の健全育成に努めている。</p>	<p><b>資料等</b></p>				
中期目標	今年度の目標	評価方法 (アンケート項目)	結果の分析	課題と対応策	学校関係者評価 【実施日】令和8年2月4日	来年度の改善策 (誰が何をどうする)	
<p><b>自学</b> ・生徒一人一人が有用感・成就感を味わえるよう規律ある授業の継続と基礎学力の定着を図る。</p>	<p>○主体的・対話的で深い学びが成立する授業への転換を図る。                  ・ICTを活用し、級友との関わりを大切にしたい授業を展開する。</p> <p>○自学の習慣を育成する。                  ・授業との向き合い方や家庭学習を充実させる。</p>	<p>○アンケート結果から評価項目                  生徒:20～45                  教師:1、2、7、14、15、16、17、19                  保護者:2、9</p>	<p>アンケートでは、84%以上の生徒が「学習課題を理解し、よく考え、わかろうと努力をしている」、「しっかりと話し合いや実験等に参加している」と答えた。また、95%以上の教職員が「教材研究を通して、日々専門職としての資質と指導力の向上に努めている」と答えた。生徒・教職員ともに昨年度に引き続き高いポイントを維持している。教職員は生徒に、分かりやすい授業を日々心がけ、生徒は意欲的に授業に参加していると考えられる。また、保護者の「学校は、わかりやすい授業をしている」の設問に対して肯定的な回答が昨年度と同水準で維持されている。学校として落ち着いた学習環境が整っている状況と考えられる。</p>	<p>アンケート結果から、多くの教師がわかりやすい授業を心がけ、生徒も意欲的に参加していることが分かる。落ち着いた学習環境の中で教師と生徒がともに学び続ける姿勢がこの結果につながっていると考えられる。しかしながら、授業が楽しく分かりやすいという設問に対して、教科によっては否定的な回答が昨年度と比較して微増しているものがある。生徒の教科ごとの得手不得手、学力分布の二極化等が考えられ、これまで以上に楽しい授業を心がけ、個に応じた指導により小さな達成感や成就感を積み上げることで基礎学力の定着を図っていききたい。そのために、現状に満足せず、常に学び続ける教師を目指して、校内研修を中心に力量向上に取り組んでいきたい。</p>	<p>生徒、教職員、保護者のアンケート結果から、学校が落ち着いた学習環境になっていることが分かる。学力の二極化については、引き続き個に応じた指導を進め、次の授業が楽しみになるようにしてもらいたい。勉強についていけないことが劣等感になったり、いじめの対象になったりすると思われる。今後も、ICTなどを上手に活用して、一人一人に優しい授業を展開し、楽しい学校をつかっていく。</p> <p>保護者の考え方には、相当な幅があり一つ一つ対応をせまれる先生方は大変だと思う。先生方が元気にしていることが子どもたちにとって一番である。健康で笑顔を大切に子どもたちの前に立ち続けてほしい。</p>	<p>教務主任・現職主任を中心に、現職教育において、重点目標を明確化し、生徒が主体的に活動できる場の設定、ICTの効果的な活用、個に応じた指導に適した学習環境の提供に取り組んでいく。今年度より実施している教師同士の授業参観の機会を設定し、教師の自己研鑽に努める。</p> <p>また、校内研修の機会を計画的に設定し、現職教育に取り組んでいきたい。教師が自信をもち、健康に笑顔で授業に取り組めるよう、チームとして授業改革を進めていく。</p>	<p>アンケート調査用紙</p>
<p><b>真心</b> ・集団の中で、社会的自立をめざして人間関係づくりに主眼をおいた教育活動を進める。</p>	<p>○道徳性を育むに資する道徳の授業を展開する。                  ・道徳的価値について議論できる授業を実践する。</p> <p>○集団生活を送る上で大切にしたい心(思いやり、礼儀、責任等)を育む。                  ・日々の係活動・当番活動やボランティア活動に積極的に取り組ませる。</p>	<p>○アンケート結果から評価項目                  生徒:3、4、5、7、9、15、17、18、44                  教師:8、20、21、22、23、24、25、28                  保護者:4、10、11、12、13                  地域:4、7</p>	<p>アンケート結果から、生徒・教師・保護者について、ほとんどの項目で高い水準の回答が得られた。特に、生徒アンケート17・18「困ったときに相談できる先生がいる」「相談するとすぐに対応してくれる」でより肯定的な回答が増加しており、生徒・教師・保護者の信頼関係が良好であることの現れと推察できる。また、教師アンケート「道徳の授業の指導方法の改善に努めている」が大きく上昇し、ローテーション道徳が定着したことで、一つの教材を深く追究し、教師が自信をもって授業に臨んでいる様子が見え始める。しかし、「社会や学校のルールを守って生活している」、に関する項目で、保護者からの回答では肯定的な意見が前年度を下回っている。校則、交通ルール等、保護者目線による評価とのギャップがあることが読み取れる。</p>	<p>生徒・教師・保護者のアンケートからは関係が良好に見えても、現状に満足せず、常によりよい方向を目指していききたい。</p> <p>道徳の時間を一層充実させるだけでなく、学校生活のあらゆる場面で相手の気持ちを考えた行動や場に応じた対応等、教え込むのではなく生徒自らが考え気づき行動できるような働きかけを行いたい。いじめ根絶のため、からかい・嘲笑・非難の排除に努める。同時に、家庭への啓発や、地域への情報発信等も行っていきたい。生徒の命に関わる交通ルールの遵守等についても、指導していく。</p>	<p>地域の街頭パトロールをしていても、中学生の悪い話は聞かない。生徒たちは真面目に生活していると思う。人権集会等で色々な小中学校に出入りすることがあるが、子どもより大人の発言の方が気になることがある。大人が「大人の価値観」をもって、子どもたちの前で手本となる存在でありたい。「全体のために自分は何かができるか」を考えさせる生徒会行事が素晴らしい。生徒会行事を通して、思いやり、礼儀、責任について指導を進めてほしい。</p>	<p>道徳の授業においては、教務主任、道徳教育推進教師を中心に、年間指導計画を見直し、学校行事や生徒指導、他教科と関連付けしながら、次年度の計画を立案する。生徒一人一人に内容項目を意識させるとともに、ローテーション道徳を継続し、多面的・多角的な価値に気付けるよう、教師が教材を深く追究していく。</p> <p>道徳の授業だけでなく、生徒会行事、学級活動、部活動等で道徳心を育てられるよう、教師が生徒の自立を考えて支援していくことが必要である。</p>	<p>アンケート調査用紙</p>
<p><b>鍛錬</b> ・進んで心身を鍛える生徒を目指し、粘り強さ、たくましさ育てる。</p>	<p>○部活動や係活動に継続的に取り組ませ、粘り強さを培う。                  ・目標をもたせ、活動への参加を促す。</p> <p>○「認める」「ほめる(支える)」「励ます」関わりを通して、たくましさ育てる。                  ・生徒指導の3機能、「共感的な人間関係」「自己決定の機会の提供」「自己存在感の育成」を意識して指導する。</p>	<p>○アンケート結果から評価項目                  生徒:8、11                  教師:7、26                  保護者:3</p>	<p>アンケートの生徒、教師、保護者ともに生徒の部活動や習い事への参加や、自主性を育てる取組に関する項目では、昨年度と大きな差は見られず比較的良好だといえる。生徒の健康意識「食事や運動、睡眠時間の確保など、健康を考えた生活を心がけている」という項目でも、肯定的な回答(75%)が多い。しかし、健康を考えた生活をできておらず体調を崩す生徒も一定数存在する。成長期の生徒達には、生活の基盤となる健康について更に意識させたい。保護者の「子どもは部活動(地域活動)に積極的に参加している」の項目について、肯定的な意見が10%ほど減っている。休日部活動の地域展開が進み、平日の活動時間や活動日数に制限があることで、生徒の取組が見えにくくなっていることが考えられる。</p>	<p>生徒が活動するスポーツの選択肢は、学校部活動に限らず、社会体育など多岐にわたる。これから部活動の地域展開がますます加速していくと、さらに多様な取り組みが出てくると思われる。学校外の活動には制限がないため、長時間練習に励み、心と体が疲れた状態で登校する生徒もいる。一人一人を認め、大切にして健康意識をさらに向上させたい。部活動についても、当の間は平日の活動は実施されるため、限られた時間の中で目的意識をもって取り組むよう指導していく。地域クラブやジュニアクラブ等、生徒のスポーツの機会については、市教育委員会と連携し、これまで通りに必要な広報を進めていく。</p>	<p>市の人権啓発活動において、中学生が「部活動の時間が短くてつまらない」と市長に訴えているのを聞いた。今までの部活動は、学校で行ってくれているからこそ、全ての生徒にスポーツに取り組む機会を与えられていた。地域クラブが設置されたが、どのくらいの生徒が加入しているのだろうか(全体の50%以下)。少子化が進んでおり、さらに地域クラブへ加入する子どもが少ないのであれば、チームとして成立することも難しいだろう。小学校まで取り組んでいた競技をやめてしまうことにならず減ってしまうことが心配される。</p>	<p>部活動に対しては、短い時間の中で子どもたちが自主的に活動できるよう、目的意識をもち、自分たちで練習計画を練ることで達成感や成就感を味わえることができるよう各顧問に助言していく。</p> <p>9月から始まった地域連携の動きについても、新入生に混乱が生じることのないよう、保護者にも学校行事やPTAの会等で丁寧説明して、引き続き理解を求めていく。生徒、職員、保護者、市教育委員会が連携し、部活動と地域クラブの実態把握に努め、よりよい活動や指導の改善に取り組む。</p> <p>市教育委員会が設置を進める地域クラブや文化活動の情報についても、保護者や地域に発信し、スポーツや文化活動を自分で選択し、取り組める生徒を増やしたい。</p>	<p>アンケート調査用紙</p>
<p><b>地域協働</b> ・地域に開かれた学校づくりを進め、地域と共に生徒の健全育成を図る。</p>	<p>○保護者、地域、関係諸機関と情報共有・連携し、合意形成を図りながら、教育活動を展開する。</p>	<p>○アンケート結果から評価項目                  生徒:6                  教師:9、10、13、28                  保護者:5、6、7、8、15、16、17、18                  地域:1、2、3、5、9、10</p>	<p>生徒・教師・地域住民アンケートでは、地域協働やボランティアに関する項目で概ね昨年度と同等の肯定的な回答になっている。一方、保護者アンケートでは、「子どもは地域の活動や行事にボランティアとしてよく参加している」の項目では肯定的な回答が30%にとどまっている。これは、コロナ禍以前は当たり前に行われていた行事が、生徒にとってははじめてのことばかりで、意欲的に参加しているつもりでも、活動が伝わりにくくなっていると考えられる。さらに、中学校のテスト週間と地域の行事の日程が重なり、参加しづらくなったことも結果に影響していると考えられる。</p>	<p>情報発信や授業参観・学校行事等、昨年度よりも肯定的な回答が高いものについては、今後も継続して取り組みたい。地域との関わりについて、今後部活動がますます縮小されていく中、生徒の活躍場が地域に委ねられる場面も多くなる。地域からは、以前は地域行事の手伝いに教員も多数参加していたが寂しくなってしまうとの声も聞いている。教員の働き方に関する理解が得られるよう情報発信に努めること、また、生徒の頑張りを学校でも認められるような情報共有に努めることが必要である。実際にボランティアに参加した生徒からは、地域の方に褒められ、次回も行いたいと意欲をもつ生徒がいる。コロナで絶たれていたものを再構築できるよう地域から依頼されるボランティアに意欲的に参加、取り組むことができるよう生徒に声かけ等、働きかけていきたい。</p>	<p>生徒・教師・保護者と地域の方のアンケート結果で差があるのは、コロナ禍以前との比較が大きいと思う。生徒も保護者も初めての地域行事であっても、主催者にとってはこれまで通りのイメージをもっているからである。教員の働き方改革が進み、生徒を引率したり指導したりすることが難しくなっていることは理解している。うまく地域協働できているコミュニティがあるため、地域同士も情報共有をして、中学生に活躍の場を提供していきたい。不登校生徒が参加し、自分に自信をもつことができた例もある。学校には、引き続きボランティアの募集や積極的な広報をぜひお願いしたい。</p>	<p>ホームページについて、今後もより多くの人に見てもらえるよう、日々の何気ない授業や生徒の活動の様子を掲載するように努める。</p> <p>ボランティア活動については、今年度と同様にボランティアリーダーの生徒を中心に周知と参加者の集約を行い、自主的・自発的な活動を継続する。また、各コミュニティからのボランティアについても、生徒が休日を有効に過ごし、それぞれの地域で活躍できるよう働きかけたい。</p> <p>生徒の自己有用感を感じさせるため、学校でも生徒の活躍を賞賛したり、ボランティア活動に関わる方々からの言葉を紹介したりしていく。</p>	<p>アンケート調査用紙</p>